

アジアの友

The Asia-no Tomo

6-7

JUNE-JULY

2013

第100回 帯津良一先生講演会
最後の晩餐と人間の尊厳
ー掛替えのない20年をありがとうー



ABK 寮生が荒川区のお祭りに参加！



6月8日(土)、ABK やまぶき寮(荒川区)の寮生を中心に ABK の学生約 40 名が東共栄町会天王祭に参加しました。やまぶき寮が出来て以来、ABK 学生の参加は今回で 9 回目を迎え、町内の方からは、「今年が一番元気だね！」という褒めの言葉もいただきました。

TNI タイ人学生達の生け花作品



タイの泰日工業大学(TNI)から ABK の春季短期コースに参加した学生達が生け花の授業を受け、美しく完成した作品をアジア文化会館(ABK)館内に展示しました。

アジアの友

2013年6-7月号 第503号

目次

巻頭

第100回 帯津良一先生講演会

2 最後の晚餐と人間の尊厳

掛替えのない20年をありがとう

歴史

15 「アジア・アフリカの独立と発展に尽した人々」より

オン・サン (Aung San) 第3回 (最終回)

交流

18 泰日工業大学 (TNI) 短期留学生による日本語スピーチ発表会

データ

22 平成23年度 外国人留学生進路状況調査結果より

知友会通信

24 奨学金情報、イベント情報

MEMBERS

25 ご入会、ご寄付のご報告 (2013年4月、5月)

ご報告

26 ABK 同窓生募金 (2013年5月31日現在)

32 おたより

＜お知らせ＞

2013年10月26日
(土曜)、新設校舎の
竣工記念式典並びに
パーティーを新校舎
並びにアジア文化会
館にて行います。ま
た、ご寄付者の銘板
の除幕式も行う予定
です。関係者の皆様、
ぜひご参加くださ
いますようお願い致
します。なお、海外
からの参加も予定
しています。

＜表紙＞ 東京・荒川区の東共栄町会天王祭で、神輿をか
つぐ ABK の留学生たち (Photo by M.Ohara)

第100回 帯津良一先生講演会

最後の晩餐と人間の尊厳

ー 掛替えのない20年をありがとうー



ABKでは、1991年に中国文化の紹介を兼ね、ABK気功教室を開設しました。その翌年、ご縁あって帯津三敬病院名誉院長でホリスティック医学の第一人者である帯津良一先生に『気功を始めるに当たって』という演題で講演を行っていただきました。この講演が大好評だったため、その後1993年2月から定期講演会「ABK 帯津良一先生講演会」を開始、年間平均5回のペースで行って来ました。そして今年丁度20年、最後となる100回目の講演がABK 近隣の先生行きつけの「御旦孤」を会場に行われました。本誌では帯津先生と、これまで御参加いただいた全ての皆様、そして会場にいらっしやれなかった皆様に感謝の気持ちを込めて、本講演の模様をお伝えいたします。

100回を迎えて

みなさんこんばんは。

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

ABKのみなさん、そしていつも講演会に来て下さっているみなさんに、本当に心から感謝申し上げます。

私はこの100回、20年間というのはですね、最初は小木曾さんに「100回やりましょう」と言われたんですが、あんまり現実味はなかったですね。「100回やると20年にかかるなあ」と私は感想を言っただけで、本当に実現するのかとも思わなかったんですが、95回目くらいになったら急になんだかそわそわしてきて（笑）、やはり20年間、100回というのは大きいなと思いましたね。

実は、最初はですね、知っている人は知っていますし、知らない人は知らないと思うんですが（笑）、私はNHKの教育テレビで気功の番組を担当したんです。1992年でしたかね。それもまた本当に偶然で、NHKのディレクターの方が気功の番組を企画したんですが、誰を講師にしたらよいかわからないので、太極拳の楊名時先生に相談に行ったらしんです。楊名時先生は私の飲み仲間ですから、帶津さんに相談しなさいと言ったんですね。それで、私のところにディレクターの方が来まして、いろいろ話をしまして、とにかく上層部のゴーサインが出ないことには動きが取れないと。「ゴーサインが出たらすぐもう一度来ますから、よろしく」と言って帰っていった。

2週間位してからそのディレクターから電話があって、「ゴーサインが出ました。只今から準備に入りますが、日にちの余裕がありません。今から新しい講師を探すわけにはいきません。先生やってください。」と言うんです。それで、私はそういう気持ちは全然なかったけど、そういう羽目になり担当、出演することになったんです。

その番組を見た小木曾さんが電話をしてきた。アジア文化会館の文化事業の一つとして気功の教室をやったかったけど、気功はなんとなくうさんくさいところがあるし、ためらっていたと。ところがNHKが取り上げたということと、帶津が、まあ同級生ですからね、小木曾さんの方がちょっと年上ですけど…、帶津がやるんだからこれはもう大丈夫だと。それで始まったんですね。

それで、こんなに長く、本当に大学の時は小木曾さんとはそんなに仲良くはなかった（笑）。悪くもないけど良くもなくで、それが一番付き合うことになりまして、これも縁だと思って感謝しております。

ついでながら、同じく長く続いたのが、日本がんコンベンションという癌の代替療法の会ですね。このコンベンションでは二日間に渡って10人くらいのスピーカーが喋るんですけど、これがなんと今年で19回なんです。1年に1回ですから19回ということは19年になるんですね。この会が、実は私は知らなかったんですが、去年18回の時に私が喋ろうと思ったら、司会の方が、「実はこの会は18回です。18年やってきました。18年一度も休まないで出ているのは帶津先生一人で



させたんですね。それで本を作りました。私にまったくなんの連絡も無く。そして、ゲラになってから持ってきたんですね。こういうのが出来ましたと。いや〜、嬉しかったですね。打ち切りになったのは残念だけど、19年間喋ってきたことが本になるというのは本当に嬉しかったですね。それでまあいいかと（笑）。

す」と言われたんです。これには、じんときましたね。なるほどと思って。そうするとずっと休まないのは私一人なんだと。これは休まないで行こう。今年も7月に第19回が開かれるんですけど、まあそういう会でこれは続いております。

それから、19年続いて20年目に突然打ちきりになったのが駿台予備校なんですね。駿台予備校は医学部を受ける学生さんたちに一年に一回ですけど私の話す時間があり、やっぱり19年間やってきて、いつも小論文の先生と教務課の職員の方々と私の講演が終わると近くで一杯やるんです。いつもチェーン店の居酒屋でやって、みんなで来年の20年目はもう少し高い店で盛大にやろうと言って別れたんです。そうしたらなんと打ちきりになりました（笑）。理由は私はわからなかったんですけど、ある編集者の方が取材をさせてくれと言って駿台に行ったところ、今年は帯津先生の講演はありませんと言われて帰って来た。ところが、この人はやはりなんと言うんですか、ただでは引き下がらないというか、駿台さんから19年間の講演録を出

その時にですね、小論文の先生ですって19年間私の講演の司会をしてくださっていた、上条さんという方が、今も教鞭をとっておられますが、この方に前書きか後書きを頼もうということになって電話をしたんですね。そうしたら、「先生の講演が突然中止になった理由を知っていますか？」と私に言うから、いや知りませんよと言ったら、「あのホメオパシーバッシングですよ。」と。ホメオパシーバッシングはその前の夏に起こりました。朝日新聞です。こういうことは始終あることですから私は、何も気にしていなかったんですね。そうしたら、ある国立大学からクレームが入って、そういう人に受験生を預けるのは良くないと言ってきたらしいんです。で、駿台さんもじゃあ止めましょうとあっさり止めて、それで初めてわかったんですけど。まあだからって、どうってことないんで、本が出来ただけ良かったかなあと。あとはその某国立大学がいずれ滅びるなあと思っただけなんです（笑）。

そう思っていたら、先日駿台さんから電話が入ってきて、またやってくれと。それでこ

の秋から始めるんですけど、これがどういう経緯かという、その私いつもよく飲んだ教務課の課長さんだった方が、偉くなって市谷の校舎長となって戻って来たんですね。校舎長ですから市谷では一番偉いんです。戻って来たとともに帯津先生の講演会を復活させようと提案したらしい。それで10月にやることになった。これも嬉しいといえば嬉しいし、まあだんだん続いていくだろうと。

最後の晚餐

それから、「最後の晚餐」はですね、いつの頃からか、患者さんの死への不安を取り除く、あるいは取り除けないけど軽くするために、私がいつも死に近い所に居るということが大事だと思ったのは、青木新門さんの本から学んだんですね、どの患者さんよりも死に近い所に居るとなると、もう今日を最後の日だと思って生きるしかないわけですね。今日死ぬ方がいるわけですから。だから、そう思って今日が最後の日だと思って、生きてきました。

何時頃からかという、これも曖昧なんですけど、おそらく数年前だろうと思うんですね。それで、「最後の晚餐」ということで、今日が最後となると夜の夕食が「最後の晚餐」ですから、これはもう身を正してある種の覚悟を持って食べるわけです。これがなんとも言えなくいいんですね。私はだいたい病院の食堂で食べることが多いんですが、いつも同じようなつまみでも、なんか座ると背筋がピンと張って、胸にときめきが湧いてきます。

今日が最後だと思うとですね。

それがだんだん板についてきたというか、口だけでは無くなってきたというのは、実は昨日も都立小石川高校の同窓会が昼間都内であったんです。だいたいこの頃は同窓会を昼間やるんですよ。みんな暇があるもんだから（笑）。私は現役ですからね、暇がないから昼間にやられたら本当に迷惑な話なんです、一応、クリニックの予約は断って、行ける態勢にしていたんです。ところが行くとなったら、なんとなく、昼間飲んじやうと「最後の晚餐」が生き生きしてこないなあと思ったんですね。それで「最後の晚餐」をとりました。山田婦長に嘘の電話をかけさせてさぼったんです（笑）。同窓会には行きませんでした。それで、夜の「最後の晚餐」に備えたんです。やっぱりいいもんですよ。昨日の「最後の晚餐」は一人でしたが、一人でも今日が「最後の晚餐」と思うとなかなかいいもんです。それと、今日の演題の「人間の尊厳」とどう関係があるかと（笑）。最後の講演だからなんとなく意味深長というか、意味がありそうな題名にしようと思って、それでこういうことになっちゃいましたが、これから結びつけなといけない（笑）。

澤瀉久敬の医学概論

実は、私は、これもまた知っている方は知っていると思いますけど、よく土日はグランドパレスホテルで原稿を書いているんです。もう古い付き合いなので3時にチェックアウトなんです。3時にチェックアウトしてどうす



るかという、山田婦長に迎えを頼むんです。ただ、3時に家に帰ってもしょうがないし、飲みに行くといっても早いですから、どうするかと言うと、神保町まで歩いて行って、東京堂書店に入るんです。そして東京堂書店で1時間か1時間半、時間を潰して、本を見て歩くんですね。その後、中華料理屋の「揚子江」さんに寄って、上海焼きそば何かを食べながら生ビールを飲んで、それでその夜の酒が始まるわけです。

東京堂さんが好きなのは、いい本がそっと置いてあるんですね。これはとても不思議なんです。しかもいい本でも売れそうにないというのがありますね。1冊しかなかったり、1冊平積みじゃないけど、ポツと1冊置いてあるんですよ。これを見つけるのが楽しいんです。先日もこういうのを見つけました。岩波書店から出ている、『思想としての医学概

論』という本なんですけど、こんな厚い本で4000円もするんです。だけど見た途端にこれは買わなきゃと思ったんです。

医学概論というのは医学哲学のことなんですよね。大阪大学が、1941年ですから、ちょうど太平洋戦争が始まって間もなく、大阪大学医学概論という講座を作ったんですね。それで、ここでこの講座を担当してくれと、澤瀉久敬（おもだか ひさゆき）先生というフランス哲学の先生に依頼したわけです。私は医学概論についてはそんなに詳しく知りませんが、これは、すごく先見の明があったと思ってます。澤瀉さんの後を次いだのが中川米造先生で、中川米造先生はホリスティック医学協会の顧問をしてくださったし、ロンドンにもスピリチュアルヒーリングの研修旅行に一緒に行ってくれたりして親しかったんで、彼のことはよくわかってるんですけど、澤瀉さんのことはよくわかりません。医学概論のことはあまりわからないんですけど、とにかく哲学なんですよ。1941年にこの講座を開いた。これは本当に素晴らしいですね。医学概論を読んでみると、とにかく戦争が始まった頃ですから、仲間は戦地で殺し合いをやっている。そうでなくても、みんなどんどん同じような年齢の人が軍に入っていく。この時代にあなた方は医学の勉強をしている。しかも医学概論なんて、実際には何にも役に立たないような学問をして、これは非常に心苦しいことに違いないと。だけど、と言ってますね、あなた方が国に報いることは今の勉強を一生懸命やることだと彼は言っている。

いや、あの時代に、いい度胸だと思うん

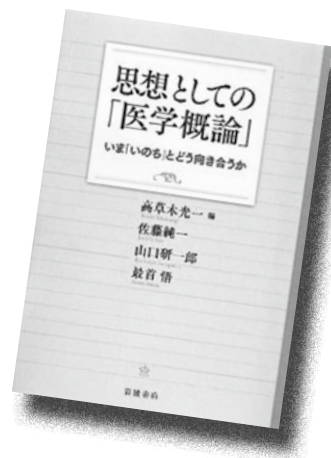
ですね。やっぱりこの人はできてるなと思うんです。だいたい彼が説こうとしたのは要するにホリスティック医学ですよ。西洋医学だけが医学じゃないということを初めから言っているんですね。もっと全体的な医学を展開しないとイケないと。それで、例えば西洋医学をデカルト的と言って、漢方医学をベルクソンの性的と言って分けているんですね。片方は客観的分析的、片方は直感的。ベルクソンの直感ですよ。また、さらに、西洋医学は空間の医学である。漢方医学は時間の医学である。こう言ってるんですね。これはどういうことかという、空間の医学というのは要するに、パッと見た病気を診るだけです。静的、スタティックな状態、なんの動きもない。

ところが時間の医学というのは時間と共に動くんです。だからダイナミックなんです。こっちにはダイナミズムがあります。そのことを彼が言って、だから漢方医学だけではなく、ハンス・セリエのストレス学説とか、ソ連のパブロフの条件反射とかを挙げて、こういう勉強をしないとイケないんだということを言ってるんですね。

1940年に時間の医学なんて、これは一致するのは福岡伸一さんですよ。青山学院大の分子生物学者。『生物と無生物の間』という名著がありますが、彼に『動的平衡』という本があります。上・下でね。彼は要するに生命現象と言うのは動的平衡、Dynamic equilibrium。(笑) 難しい発音ですが、要するに動的平衡。これは、どういうことかという、要するに、我々はいろいろ生活しながら

体内のエントロピーが上がってくるわけですね。エントロピーが上がってくると秩序が乱れて健康が害される。それなのに毎日はずらつとしているのはなぜなんだと。これはエントロピーを外に棄ててるんだと。汗にくっつけたり、吐く息にくっつけたり、大小便にくっつけたり、涙にくっつけたり、みんなエントロピーを棄てている。というのが、エルヴィン・シュレーディンガーの解釈なんですよ。それが今定説になってるわけです。

ところが福岡さんはもっとドラスティックというか、そのエントロピーだけ棄てていたんじゃないか合わないと言います。だから人間というか生物はたんぱく質を、身体を構成しているたんぱく質の一部が秩序が乱れてきてエントロピーがどんどん増えてくると、これが害を為すから、エントロピーだけを棄てるだけじゃなくて、たんぱく質自体を棄ててしまう。壊して、棄てちゃって、良質のたんぱく質を食べ物として補って、秩序性の高い、エントロピーの低いたんぱく質と入れ替えるわけです。福岡さんに言わせると、エントロピー増大の法則から我々のはかろうじて逃



れているんだと。

逃れて逃れていくんだけど、エントロピー増大の法則もどんどん追いついてくるといつか捕まる。その時が個体の死だというんですね。非常にわかりやすいけれど、ドラスティックな考えですね。だから私、彼と対談した時に、そうすると、上質のたんぱく質というと、ステーキがいいんだろうなあって言ったら、「そうですね」と。私はステーキは大好きですから、患者さんにも玄米菜食だなんてことは言いません。上質のステーキを摂りなさいと（笑）。毎日食べちゃ悪いけど。

そういうことで、すでに1940年頃に、澤瀉さんは言ってたわけです。

寄り添う場を提供するのが医療

それから澤瀉さんは、人間観も特別なものを持っていて、人間には六つの面があるということ言ってるんですね。一つは物体としての。この身体ね。それから二つ目は生命を持った物体、すなわち生物である。三つ目は意識を持った生物である。ちゃんとした意思を持った。四つ目は意思の力で独立独歩生きていく、そういう独立者である。五つ目は社会的な存在である。要するに人と協調して何かやっていくという存在。六つ目は思索者としての、あるいは思想者としての存在。要するに生に悩み死を恐れる。そういう思索したり、思想を持つ、そういう存在である。六つの面があると。人を見たら、患者さんを見たら、この六つの面と全部付き合わなきゃいけない。今の医療はそんなことをしてません

よ。澤瀉さんの言ってる最初のあたりのことをやっているだけで、最後のほうはやってません。だから先見の明ということにおいて、澤瀉さんは凄いを言ってるなと思ったんですね。私は結局澤瀉さんの言うようにいろんな面を配慮して患者さんと付き合うということをするのは大変ですから、私はとにかく相手の悲しみを、生きる悲しみを尊敬しちゃえばいいということ言ってきたんです。人を見たらその人が抱えている生きる悲しみを、生きることにそもそも備わっている悲しみですね。旅人としての悲しみ。これを補っていかないと。そうすると医療というのはどうやっても、温もりのあるいい医療になってくるわけです。

ところがこれをいくら言ってもダメですね。20年間言ってきましたけど、なかなか現場では変わってくれません。

駿台の、今度、校舎長になってきた人が私と飲むといつも言ってたんです。駿台経由で医学部に入る人が10パーセントいるというんですね。浪人だけじゃなくて、現役で駿台で夏季講習を受けたり、あるいは何か関係した人たちですね。彼らがみんな帯津先生の講演を聞いていると。だから彼等が医学部を出て、やがて日本の医療が大きく変わりますよと、酒を飲みながら励ましてくれるんです（笑）。でも全然変わらないですよ（笑）。これがおかしいんですね。その人が今度校舎長になってきたから、またおかしいことが起こるんじゃないかと思っているんですけど（笑）。

そういうことで澤瀉さんが言ってることは、大変なことですが、こういうことを、澤

瀉さんの医学概論を、この岩波の本に4人の人たちが書いている。経済学の人が1人と、医者が2人と、そしてもう1人は最首悟といって、これも知る人ぞ知る、東大闘争の時の助手共闘ですね。助手の人たちが作っている共闘会議のボスだった人です。この人は今駿台の予備校で教えていますが、非常に昔の情熱を失わない人です。

で、この本の中で結局彼等が言いたいことはこういうことなんですね。医療と言うのをこういうふうに位置づけたらどうだろう。要するに、はかない存在の、みんな悲しみを抱いている我々が互いに寄り添う。その寄り添う場を提供するのが医療だと言うんです。そうやって寄り添うことでしか、科学技術や何かでは人間の本来の悲しみなんかとても癒すことは出来ない。寄り添うことでしか癒せないんだと。そこに医療としての本質があると。そこを考えなきゃいかん。確かにそうですね。

だからここを考えると、やはり澤瀉さんの先見の明と言うのはすごいと思うんです。やはりこの本の著者たちが言っていますが、それをもう少し医学的にあるいは医療的に先へ進めたのが、医療と言うのは西洋医学が得意とする物理化学的な治療法が一つ。あとは自然治癒力を高める方法。これは今のところ自然治癒力が解明されていませんから、代替療法が担当する。そして3つ目が大事なんだと。3つ目は医療者と患者の関係性だと言うんですね。これがいかに一体となれるか。要するに一体となることによって医療と言う場のエネルギーが高まってくる。医療と言う場の自



然治癒力が高まってくるわけです。ここに目をつけなきゃいけない。私もそう思いますね。だから、ここのところの医療者と患者さんの関係性と言うことを、しっかりやってかないといけない。これからですね。それはもう我々の仕事だろうと思っています。

医学概論を育てた大阪大学

ところが、そういったことを、澤瀉さんが1941年にやったという大阪大学がすごいと思ったんです。なぜだろう、東大なんかそんなことおくびにも出しません。それで、ちょっと成り立ちを調べてみたら、東大は東京大学になってから東京帝国大学になるんですけど、これ非常に早い時期なんです。明治初頭と言うか、10年、20年くらいの間にそうなっているんですね。東京大学の医学部の前進は江戸幕府が創った開成所というのがあるんですね。これは、西洋の学問を担当する役所なんですね。教えたり、研究したり、普及したりしたお役所なんですね。もう一つがジェンナーの種痘所です。これも幕府が作りました。江戸幕府が作った官立の施設が基礎になっているわけですね。ところが大阪は、調べて



思っただけですね（笑）。
徳州会の徳田虎夫さんくらいのも
のです。徳田さんは阪大です
から、あの人は私昔から尊敬して
ますから大丈夫なんですけど、ほ
かにちょっと見当たらない。

人間の尊厳と予感

話を戻すと、結局我々はそう
やって患者さんとの関係の中でい

みるとこれは官立ではないんです。懷徳堂と
いう民間の医療施設がちょうど1740年頃で
すから、貝原益軒が死んでしばらくした頃で
すね。これ民間が作ったんです。それから緒
方洪庵の適塾。これも緒方洪庵は民間の人で
しょ。これがもう少し後にできて。この二
つが母体なんです。ですから初めから自由な
真摯の精神というのが、大阪大学の方にはあ
るわけですね。

そして帝国大学になったのも、東大は明治
の半ば前ですが、大阪大学になったのは昭和
です。昭和、私が生まれる頃なんです。そこ
に帝国大学になった順番が出ていて、要する
に東大の後になってるのは京都大学。京都大
学の後が、東北、九州、北大が続くわけ
ですね。それでなんとその後が、朝鮮の京城が帝
国大学になっている。台湾の台北大学が、そ
の後が大阪になる。だから大阪はやっぱり非
常に自由な雰囲気の中で医学概論を育てた
と思うんですね。これはもうほんとに感心しま
すね。だから阪大出身の先生をこれから尊敬
しようと思って（笑）。で、誰かいらないかと

い場を作っていくということが医療の基本で
あるとして。やはり考えてみますと、「人間
の尊厳」というものは、生あるものみんな自
分の尊厳というものを守り続けて死後の世界
に行くわけですね。だから人間の尊厳を保ち
続けることをサポートするのが医療だろうと
私はそう決めたんです。人間の尊厳を保ち続
ける。そのことによって、病気が治ったり癒
えたりする。これは副次的な効果ですよ。な
だから何も科学技術的なものが治しているん
じゃなくて、やはりその人間の尊厳に対して
皆が敬意を表してこれを患者さん一人一人が
保っていける。こういう状況を作るのがこれ
からの医療だと、そう思うんですね。

だから病気になった時でもただ治ればいいと
言うのでなく、それはやはりその病気に意味
がありますし、これはやはり理想の大道を行
き尽くすような生き方をしている、たまに
は立ち止まって、来し方行く末を、少し一瞥
しろという、神の思し召しだと思えばいいん
ですね。来し方行く末を一瞥して、そして溜
まっている澱のようなものを落として、予感

と直観に対する感受性を高める。これが病気の意味だろうと思うんですね。そしてそれだけの成長をしながら、だんだん死後の世界に近づいて行って、ちょうど死ぬ時に死後の世界と同じ高さにいる。同じ地平に立つというのが病気の意味だろうと思うんです。

それから緩和ケアもですね、私は緩和ケアをいつもいいものを作ろうとして主張してるんですけど、こんな簡単なことがなかなか理解してもらえないですね。緩和ケアというのは要するに命のエネルギーを高め続けていった攻めの養生をしている人たちが、最後に、最後の力を振り絞って死後の世界に突入する、その前の次期なんですね。加速する次期です。だから私がいつも言うのは、オリンピックのロシアの棒高跳びの美人がいましたね、エレナ・イシンバエワ、美人で棒をもってダーって走る人がいたじゃないですか。あれをやるのが緩和ケアなんですね。だから甘いもんじゃないんですよ。苦痛だけ取るとか、まあまあと言っていればいいもんじゃなくて、その人がしっかり加速して死後の世界に突入するのをサポートするわけですから。一緒に走るぐらいの気がないとダメですね。

それから死ぬ時もその人が前から抱いていたラストシーンを実現できるように、周りでお膳立てしてやる。これがやっぱり医療でしょ。こういうことを考えていくというのが大事なんで、その一番底には、そういう医療を行うにはやはりさっきの福岡さんの動的平衡、ダイナミズムが必要なんです。常に煮えたぎるようなエネルギーを内に秘めてないとできません。その内に秘めた、煮えたぎるよ

うなエネルギーの底にあるのは“予感”なんですね。何の予感かというと、新しい世界がやってくるという予感です。新しい世界は死後の世界ですよ。ここで最後の晩餐と結びつくんですよ。

最後の晩餐は、私の場合、具体的に言いますと、夜6時半になると病院の食堂に直行します。仕事は必ず6時半には終えてるんです。なぜ終えているかというと、朝が早い。3時半には出勤しています。3時半に出勤してほとんど休み無くやってますからね。それはもうあくまでも6時半の晩酌をしたいがためなんです（笑）。もっと時間を遅らせたりしたんじゃ、しょうがないですよ。だから、それで行って、パッとテーブルの上を見ると、私の酒の肴が用意してある。これはうちの病院の栄養科の科長が、25年付き合っていますから、私の好きなものは全部知っています。で、ちゃんと用意してあります。それをパッと見て、アッ、ウイスキーだなと思うと、自分の部屋へウイスキーを取りに行くんです。私の部屋は酒がいっぱいあります（笑）。本がいっぱいあるので本の陰に入っています（笑）。あんまり目立たない。それから、こういうところで、スコットランドに行ってきた、シングルモルトが好きになったという話をすると、必ずシングルモルトを誰か送ってくれる（笑）。今日もあと1週間位すると誰かが送ってくるかも知れない（笑）。そういうのがたまっているわけですよ。そこで、今日は最後ですから一番いいのを選んでくる。一番いいのを残して、二番目を飲んで死んじゃったら後悔するでしょ（笑）。だから一番高い



のを持ってきて、それで飲むと、さっき言ったようになんか体が引き締まってくる。そして何か煮えたぎるようなものを感じて心はときめいて、そして次の死後の世界が予感できるんです。

死後の世界っていうのは、わからないでしょ。誰も行ってきたことないから。考えたってしょうがないんです。信ずるの信じないのって言ったってしょうがないんですよ。予感すればいいんです。予感を。だから予感は無理にやろうって無理で、要するに自然に予感できればいいんですね。そうする

と、その最後の晩餐も死後の世界の予感。人間の尊厳のほうの医療も予感なんですよ。だからここで予感でもって、最後の晩餐と人間の尊厳が結びついて、私はいい医療をしながら毎日いい晩酌をするということになります。まあそう今日は申し上げたかったんです。

ちょうど時間となりました。今日は普段と違った場所で喋りにくいところがありましたが、この辺で止めさせていただきます。ありがとうございました。

帯津良一 帯津三敬病院名誉院長。医学博士。1936年生まれ。東京大学医学部卒業後、同大附属病院第三外科、都立駒込病院などを経て、埼玉県川越市に帯津三敬病院を設立。西洋医学と中国医学や気功、代替療法などを取り入れ、人間まるごとをとらえるホリスティック医学という視点から治療にあたる、がん診療の第一人者。日本ホリスティック医学協会会長。日本ホメオパシー医学会理事長なども務める。

ABK 帯津良一先生講演会 全講演リスト

回	演 題	開催日
	気功を始めるに当たって	1992年7月13日
第1回	全体を見る眼	1993年2月15日
第2回	蘇東坡と白隠	1993年4月13日
第3回	五調について～呼吸を中心に	1993年7月12日
第4回	医療気功10年の経験のなかから	1993年9月21日
第5回	気功の歴史と現代的意義	1993年11月22日
第6回	ホリスティック医学と気功	1994年1月25日
第7回	生命場と気功	1994年3月28日
第8回	気功の秘訣は敬の一字	1994年5月26日
第9回	呼吸と呼吸法	1994年2月24日
第10回	時空のなかの生命	1994年10月3日
第11回	医療気功の経験のなかから	1994年12月8日

第12回	二十一世紀の医学と気功	1995年 2月 9日
第13回	性命双修について	1995年 4月13日
第14回	葛洪に学ぶ不老長寿の意味	1995年 7月 3日
第15回	気・甦る生命場 - ガン治療の現場から	1995年10月14日
第16回	夏目漱石の死生観	1995年12月21日
第17回	漢方嫌いの魯迅	1996年 3月11日
第18回	気と呼吸法の科学	1996年 6月 3日
第19回	気と癒しの実践	1996年 8月 5日
第20回	気の集まるところ	1996年10月14日
第21回	医療現場の気功	1994年 7月25日
第22回	世界気功学会に出席して	1997年 5月12日
第23回	気功的人間とは	1997年 7月31日
第24回	養生気功～生きることの意味	1997年10月20日
第25回	共通のいのちを考える	1998年 1月16日
第26回	スピリチュアルヒーリング～魂の癒やし	1998年 3月26日
第27回	医療現場における気功の役割	1998年 6月25日
第28回	世界に見るホリスティック医学の胎動	1998年 8月27日
第29回	呼吸法の奥深さを知る	1998年10月19日
第30回	食養生と健康	1998年12月10日
第31回	今、「医療の現場」で思うこと	1999年 2月25日
第32回	動き出した日本の代替医療	1999年 4月15日
第33回	上海癌症倶楽部に学ぶ	1999年 6月17日
第34回	気功とスピリチュアリティ (霊性)	1999年10月28日
第35回	気功とスピリチュアリティ (霊性) Part II	2000年 2月24日
第36回	楊名時太極拳2 1世紀養生塾	2000年 5月18日
第37回	癒しの条件は PVM	2000年 7月13日
第38回	イギリス・ケンブリッジ大学での代替療法ワークショップの報告	2000年 9月21日
第39回	オーストラリアにおける代替療法	2000年11月27日
第40回	がん代替療法のすべて (1) がん治療はどこまで進んだか：日本・中国・アメリカ	2001年 3月15日
第41回	がん代替療法のすべて (2) 代替療法とどう付き合うか	2001年 6月11日
第42回	がん代替療法のすべて (3) 代替療法各論1：中国医学	2001年 7月30日
第43回	がん代替療法のすべて (4) 代替療法各論2：中成薬と健康食品	2001年11月12日
第44回	がん代替療法のすべて (5) 代替療法各論3：欧米の代替療法	2002年 3月11日
第45回	養生のすべて (1) 21世紀は養生の時代	2002年 5月20日
第46回	養生のすべて (2) 気の養生 <1> ガン治療は人間まるごとで	2002年 7月22日
第47回	養生のすべて (3) 気の養生 <2> 寛放身体こそ呼吸法の真髄	2002年 9月30日
第48回	養生のすべて (4) 食の養生 食とガン予防・ガン治療	2002年11月18日
第49回	養生のすべて (5) 心の養生 心でがんは治せるか	2003年 1月27日
第50回	がんはともだち Part1(1) がんはともだち	2003年 5月12日
第51回	がんはともだち Part1(2) 生きるかなしみと癌	2003年 7月28日
第52回	がんはともだち Part1(3) 気功再考	2003年 9月29日
第53回	がんはともだち Part1(4) ホメオパシー	2003年12月 1日
第54回	がんはともだち Part1(5) 自然治癒力はコミュニケーションのなかに在り	2004年 2月26日
第55回	がんはともだち Part2(1) がんと共に生きる達人たち	2004年 6月 3日
第56回	がんはともだち Part2 (2) 希望在心中、生命在脚下	2004年 8月 5日
第57回	がんはともだち Part2 (3) 『決定版・がんを治す療法事典』発刊にあたって	2004年10月 7日
第58回	がんはともだち Part2 (4) "場"のなかで生きる	2004年12月 2日
第59回	がんはともだち Part2 (5) がんからの生還者 1万5千人の調査結果から見えてくるもの	2005年 3月 3日
第60回	がんはともだち Part3(1) 生命の躍動 (エラン・ヴィタール)	2005年 5月19日
第61回	がんはともだち Part3(2) エビデンスと直観	2005年 7月14日

第62回	がんはともだち Part3(3) エビデンスと直観2	2005年 9月15日
第63回	がんはともだち Part3(4) がんの在宅療法	2005年12月 1日
第64回	がんはともだち Part3(5) がんとホメオパシー	2006年 2月 9日
第65回	がんはともだち Part4(1) がんとホメオパシー 実践篇	2006年 5月18日
第66回	がんはともだち Part4(2) 五木寛之さんの養生法に学ぶ	2006年 7月13日
第67回	がんはともだち Part4(3) モンゴルの草原にて思うヒトの生と死	2006年 9月21日
第68回	がんはともだち Part4(4) 医療と旅情	2006年12月 7日
第69回	がんはともだち Part4(5) 自然治癒を力を引き出すためのホリスティックコミュニケーションのこつ	2007年 2月15日
第70回	がんはともだち Part5(1) がん 最近の戦略会議	2007年 4月19日
第71回	がんはともだち Part5(2) 医療と養生の境がなくなる時代に生きる	2007年 7月19日
第72回	がんはともだち Part5(3) 加島祥造さんの「求めない心」とは	2007年 9月13日
第73回	がんはともだち Part5(4) 私の出会った養生の達人たち Part1	2007年11月29日
第74回	がんはともだち Part5(5) つながりのがん治療	2008年 2月 7日
第75回	がんはともだち Part6(1) 養生と私：フリートーカーキング	2008年 5月29日
第76回	がんはともだち Part6(2) 直観と養生	2008年 7月17日
第77回	がんはともだち Part6(3) 自力と他力：白隠禅師に学ぶ	2008年 9月25日
第78回	がんはともだち Part6(4) 自力と他力：ホリスティック医学の今	2008年12月18日
第79回	がんはともだち Part6(5) 自力と他力：医療と自然治癒力	2009年 3月 5日
第80回	がんはともだち Part7(1) 自力と他力：新病院のめざすもの	2009年 5月14日
第81回	がんはともだち Part7(2) 自力と他力：がん治療はイチローで	2009年 7月16日
第82回	がんはともだち Part7(3) 自力と他力：私はなぜホメオパシーに魅せられたのか (1)	2009年 9月10日
第83回	がんはともだち Part7(4) 自力と他力：私はなぜホメオパシーに魅せられたのか (2)	2009年11月19日
第84回	がんはともだち Part7(5) 自力と他力：私の出会った養生の達人たち Part2	2010年 1月21日
第85回	がんはともだち Part8(1) がんと養生：がん治療の要諦は医療と養生の統合にあり	2010年 5月13日
第86回	がんはともだち Part8(2) がんと養生：気の養生 - 特に気功について	2010年 7月 8日
第87回	がんはともだち Part8(3) がんと養生：天蒼蒼 野茫茫 - 新しき虚空に蘇る友情	2010年 9月16日
第88回	がんはともだち Part8(4) がんと養生：代替療法をもっとよく知ろう！	2010年11月11日
第89回	がんはともだち Part8(5) がんと養生：養生の本質と心得	2011年 1月20日
第90回	がんはともだち Part9(1) がんと養生：帯津三敬クリニックという一つの文化 (Culture)	2011年 4月21日
第91回	がんはともだち Part9(2) がんと養生：ホメオパシーとは何か	2011年 6月16日
第92回	がんはともだち Part9(3) がんと養生：がん治療におけるホリスティック医学の意義	2011年 9月 8日
第93回	がんはともだち Part9(4) がんと養生：賢人に学ぶ養生	2011年11月24日
第94回	がんはともだち Part9(5) がんと養生：がんと食養生	2012年 2月 9日
第95回	がんはともだち Part10(1) 生き方としての免疫	2012年 4月19日
第96回	気功的生き方 帯津三敬病院の気功について	2012年 7月19日
第97回	気功的生き方 気功の三要素－調身、調息、調心	2012年10月18日
第98回	気功的生き方 “攻め” の養生とは	2012年11月24日
第99回	気功的生き方 凜として老いる	2013年 2月21日
第100回	最後の晩餐と人間の尊厳	2013年 5月23日

「アジア・アフリカの独立と発展に尽した人々」より

オン・サン /Aung San (1915-1947 ビルマ：現ミャンマー) 最終回

アジア文化会館（ABK）は1960年に竣工してから運営母体の財団法人アジア学生文化協会創設者で理事長の穂積五一の指導のもと、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの留学生・研修生が、民族・思想・宗教等の違いを超え、自由と平等の原則のもと共同生活を営み、勉学に励みながら互いに切磋琢磨し、各自の向上に努力を払い、それぞれ母国の複雑で、起伏のある現実を乗り越え、協力し前進することを目指し、学生文化会（ABKの自治会；留学生、研修生、日本人により組織）を運営。穂積の発案で、学生文化会でABK在館生の出身国の独立と発展のためにつくした先人たちのことを紹介しようと冊子の発刊が計画され、平坦ではなかった作業を経て1963年に発刊に至る。民族の自由の為、人類の平和の為に各国の独立と発展に尽くされた先人の写真と略伝はそれぞれの国のものが担当した。本の名称は、「アジア・アフリカの独立と発展に尽くした人々 Great Men of Asia and Africa」。また、これが契機となり、1964年ABKにおいてアジア・アフリカ・ラテンアメリカの独立と発展に尽くした先人たちの「慰霊祭」が行われ、これを経て、「アジア文化会館同窓会」が自発的に結成、設立された。

ここでは、この冊子の中でも力作とされた当時東京医科歯科大学医学部に在籍していたビルマのココレイさん〔来日：'58/04/09、ABK在館：'60/08/12-'72/03/16（没年）〕が執筆したオン・サン（Aung San；現在表記はアウン・サン；1915-1947；アウン・サンスー・チーは娘）を「アジアの友」で501号より3回に亘ってご紹介している。（原文は英文。日本語訳は小木曾友）

オン・サン

ゼネスト

1946年9月、AFPFLは、ビルマ独立闘争史上の画期的事件となったゼネストを企てた。ビルマ全国民はそれぞれ異なった戦場からこの大国民運動に参加した。学生、仏教僧侶、造船所労働者、ビルマ鉄道、官庁従業員、郵便、電信局労働者、警察までがこの国民運動に参加した。通常、英国政府はストライキを鎮圧するのに警察を使うのが常であったが、今や警察さえもボジョ・オン・サンとその連盟の強力な指導の下に労働者と手を携えてストライキに加わった

のである。この愛国運動のもっとも意義ある点は、それが賃金値上げの要求などではなく、完全な独立を求めて行われたことである。このゼネストは英国政府を麻痺させ、その機能を停止させた。政府はビルマ人指導者の同意する条件で妥協せざるを得なかった。それはボジョとその連盟の大勝利であった。

英国政府はビルマ人の真実の代表ではない古い総督府を解散せねばならなかった。新しい総督府が作られ、ボジョ・オン・サンは、防衛大臣兼任の総督代理の地位に就いた。この新総督府の11人の委員の中には、

教育・国家計画大臣の地位を与えられたウ・ソーという人がいた。

ドーマン・スミス卿が6月に英国に帰る前にボジョについてヘンリー・ナイト卿に次のように語った。

「オン・サンは人気のあるビルマの英雄であり、間違いなく、この国でもっとも多く支持者を持っている。私は彼を非常に誠実な人間だと思う。」

7月にヘンリー・ナイト卿は新しい英国総督、ヒュバート・ランス卿と交代した。1946年12月20日、英国首相クレメント・アトリー氏は下院で国王が総督府参事をロンドンへ招待する旨発表した。ボジョ・オン・サンがその招待を確実に受けるようにするために、アトリー氏はビルマ担当國務次官、ギルバート・レイスウェイト卿をビルマへ派遣した。ボジョ・オン・サンは招待を受け、1947年1月、ロンドンへ向う代表団主席になった。その代表団の中に彼はウ・ソーを加えた。ロンドンへ向けて出発する前に、ビルマ国民に対し、最良の結果を希望すると同時に最悪の事態に備えることを述べた。「一年以内に完全独立を」というのが彼のスローガンであった。ビルマの独立のために、最初は友好的に交渉を進めるが、もしそれが失敗に終わった時は戦争をも辞さないという腹であった。

1月27日、「オン・サン、アトリー協定」がロンドンにおいて正式に調印された。代表団のウ・ソーとタキン・バ・セイン（この2人はAFPFLのメンバーではなかったが）の2人は協定に反対した。この協定に基づいて、総督府は臨時政府になり、4月に



オン・サン

選挙を行って代表議会を開くことになった。

英国政府はビルマの独立を認める方針ではあったが、ビルマから国境地域（Frontier Area）の民族を分離することを欲した。この国境地域はビルマ全面積の44パーセントを含んでおり、その中にはシャン、チン、カチンの諸民族が含まれていた。ビルマが分割されないためには、これらの全民族の団結を強めることが必要であった。1947年2月、歴史的な事件が南シャン州のパンロンという小さな町で起った。

このパンロン会議でシャン、チン、カチンの代表たちは、国境地域の諸民族が連合してビルマ連邦樹立に参加することを宣言した協定にボジョ・オン・サンと共に調印した。この重要な協定は2月12日に署名された。この歴史的な日は連邦記念日として毎年祝われている。

この血を分けた兄弟の統一の背後にあった立役者はまたも、広く大きい人気と影響

力をもったボジョ・オン・サンであった。この事実は4月の選挙の結果がよく証明している。この選挙において、AFPFLの候補者は圧倒的な勝利を博し、争われた議席の95.3パーセントを確保した。

5月19日から29日にかけて、予備会議がボジョ・オン・サンの議長の下に、ラングーンのジュビリーホールで開かれた。この会議においてビルマ連邦憲法草案が起草され、またビルマが完全なる独立主権国家であることを宣言することが決定された。6月10日、代表議会が結成され、タキン・ヌーが満場一致で議長に選出された。翌日、代評議会はビルマが大英帝国から離れて一つの独立国となることを宣言した。

暗い日

1947年7月19日はビルマ近代史における最も暗い日であった。この運命の土曜日、いつものようにボジョ・オン・サンは臨時政府の他の委員たちと一緒に行政の中核である大臣官房の一室で会議を開いていた。午前10時30分頃であった。委員たちはビルマの将来計画の作成に没頭していた。その時突然ドアが開けられ、自動小銃で武装した4人の青年が闖入した。彼等は銃口をボジョに向け、発射した。ボジョ・オン・サンは何か言いたげに立ち上がったが、弾丸の雨を浴びて倒れた。ボジョと共に6人の臨時政府委員が暗殺された。その中にはシャン州とカレン州の指導者及びオン・サンの実兄が含まれていた。もう一人の政府高官と、銃声を聞いて他の部屋からかけつ

けて来た護衛が逃げようとする暗殺者たちの凶弾に倒れた。犯人はすぐに追跡され、まもなくウ・ソーの家で逮捕された。愚かにも彼はこの陰謀に加担していたのであった。後にウ・ソーと犯人たちは裁判にかけられ、有罪の判決を受け、絞首刑に処された。生涯を通じてボジョ・オン・サンはウ・ソーから個人的な恨みを受けるようなことは何もなかった。それどころか彼はAFPFLのメンバーでもないウ・ソーを総督府の中の一つの地位に就けたほどであった。ボジョがロンドンへ行った時には、「オン・サン、アトリー協定」に署名することを拒否したウ・ソーを代表団に加えたのであった。しかしそのウ・ソーが政治的暗殺を決して信じなかったボジョーの生命を奪ったのである。この痛ましい事件が起こる以前、誰かがオン・サンを殺してしまおうとしている、という噂が流布されていた。しかしボジョは非常に誠実な人間だったので、そのような気狂いじみた考えを持った人間が存在するなどとは信ぜず、それに対して適当な注意を払おうとしなかった。

このようにして、ビルマの最も偉大な指導者、ビルマ独立義勇軍（バマ・タマドー）の父、ビルマ独立の設計者は32歳を少し過ぎた若さで倒れたのであった。ビルマ国民はボジョーと、その仲間たちの死を悼んだ。今日ビルマを訪れる著名人や高官たちはすべて、ボジョと倒れた指導者たちの墓に参拝する。ボジョ・オン・サンの後には、妻と3人の子供が残されたが、彼の妻は現在駐インドビルマ大使としてニュー・デリーにいる。

ビルマ独立計画を実行するためにボジョ・オン・サンの代わりとしてタキン・ヌーが選出された。幸運にも彼は病気になったために、あの土曜日の会議に出席出来なかった。殺人数たちの銃弾を免れたのであった。

1947年9月17日、「ヌー、アトリー協定」がロンドンにおいて調印され、1948年1月4日、ビルマの独立は世界に宣言された。そのめでたい日の早朝、ちょうど午前4時20分、ユニオン・ジャックは下され、ビルマ連邦の新しい国旗が朝のそよ風にはためいた。

多くの著名な人々がオン・サンの人格と誠実さについて語っている。労働党選出国會議員、トーマス・ドリベルク氏はオン・サンはビルマのチトーだと言っている。彼は英国議会においてボジョについて述べている。

「オン・サンはわずか30歳前後であったにもかかわらず、政治及び軍事に深い見通しを持っていた。ビルマのチトー元帥と呼ばれるのもっともである。私はずっとビルマにいた。だからビルマ人がオン・サンをどう思っているか知っている。」

初代日本軍ビルマ総司令官、飯田大將はかつて、バ・モー博士に次のように語ったことがある。日本人は3つの点でオン・サンを尊敬している——彼は金銭を欲しがらなかった。彼は権力を欲しがらなかった。彼は利己的ではなかった。

鈴木大佐も書いている。「オン・サンは全く誠実そのものである。彼はまた、勇敢で巧みな軍指導者であった。彼は愛国者であっ

た。彼の愛国心と誠実さが日本人のすべてから敬愛されたのである。」

ウィリアム・スリム陸軍元帥は、その「敗北から勝利へ」という著書の中で言っている。「私はオン・サンから感銘を受けた。彼は私が思っていたような野心的で恥知らずなゲリラ指導者ではなかった。私は彼が真の愛国者であり、均衡のとれたリアリストであると思っている。この二つの性格は必ずしもいつも結びついているものではない……私に最も大きな感銘を与えたものは、彼の誠実さであった。私は彼の誠実さを愛する。実際、私はオン・サンを好きになりはじめていた。」

また、ドニソン博士によれば、「ビルマ人にとって、オン・サンは愛国者であった。200年前のアロンパヤ(ビルマを統一した王)の時代以来、ビルマ民族を統一し、彼等のために話し、誰よりも彼等の精神をよく言い現すことが出来る唯一の人間であった。」

ビルマ語で「オン」は勝利を意味し、「サン」は新しいことを意味する。オン・サンは、その名前が表すように、ビルマに新しい勝利をもたらしたのであった。勝利——それは、その時より63年前の1885年、第三アングロ・ビルマ戦争後、英国のために失われていたものであった。

ビルマは大英帝国に併合された最後の国であった。そして独立を取り戻した最初の国であった。もし、私たちの敬愛するオン・サンがいなかったならば、ビルマの歴史は今日とは全く違ったものになっていたであろう。

(終)

泰日工業大学 (TNI) 短期留学生による 日本語スピーチ発表会



2010年からスタートしたタイの泰日工業大学 (TNI) 学生の為の ABK 春季短期コース。今年はその3期生となる学生たちが ABK に滞在し、日本語の勉強、日本の大学生との交流、日本文化体験など、約一か月の日本滞在を満喫しました。このプログラム最終日に行われた日本語のスピーチ発表会は、「タイの中の日本」のテーマで、参加者 43 名全員がスピーチを行いました。学生が興味をよせるタイの中の日本はどんなものか、その発表タイトルといくつかのスピーチをご紹介します。

★スピーチ発表リスト

T1 クラス

コウン	タイにいる日本人
ネーン	タイのDAISO
ジージー	トウキョウというおかし
プロイ	タイの日本のファッション
ニュー	Japanese Styleのデパート
ゼーン	TNIでの日本語の勉強の仕方
アート	TNIでの日本語の勉強の仕方
パール	日本のお菓子“グリコ”
パイファン	キティちゃん
ダード	タイの交通
ベン	タイの日本人のいる場所
チョンブー	ゼブンイレブン
テングワー	タイの日本のお菓子
ミュー	タイの日本の会社
ピム	タイの日本の会社
トウトウー	タイの日本人の村
バーン	日本のアニメ
モー	箱タウン
ウィン	タイの中の日本の音楽
マックス	タイの日本漫画

T2 クラス

ビン	ABK48
ティツティ	紀伊国屋書店
マイ	Reborn
オーク	日本の服
メー	日本の旅行の会社
トニー	ママー
バックブーン	日本料理の店
ノン	SONY
リーン	寿司の店
ヨック	車
ポー	映画Sky of Love
イーン	タイのさしみ
イム	お好み焼き
ポート	君に届け
オーン	Line application
テーン	Thai-Toshiba
ボム	日本の服
サイ	タイと日本の関係
ウム	TOYOTA
ミーン	melt me(chocolate)

D3 クラス

トウア	タイにある日本の100円ショップ
-----	------------------

D2 クラス

ヨード	タイの中の日本
-----	---------

S1 クラス

ピー	タイ人にとっての日本料理
----	--------------

※ T クラス：TNI の短期コース学生のためのクラスで、日本語初級レベル。

D クラス：ABK 既存の大学進学を目指す為のクラス。

S クラス：ABK 既存の日本語専修のクラス。



「タイの日本の会社」

ヒム

私は THAI-NICHI 工業大学の工学部のヒムです。

今日、タイの日本の会社についてはなします。

タイには日本の会社がたくさんあります。主に部品を作ります。たとえば 車の部品です。

タイ人は だいたい日本の会社で働きたいです。私も日本の会社で働きたいです。私の理由は日本語が練習できるということと給料がいいということです。

私の父は、日本車の部品を作ります。タイ人のおおくの人が日本の会社ではたらいしています。

私は子供の時に、父の会社を見たことがあります。会社のみんなはとても一生懸命働いていました。日本の会社はルールが厳格です。わたしはいいことだと思いました。

タイから輸出される、車の 99.9%が日本のメーカーのものだそうです。



「東京というお菓子」

シーシー

みなさん、「東京」というお菓子を知っていますか？

「東京」というお菓子は日本にはないお菓子だと思います。

子供の時に「東京」というお菓子をいつもたべました。みんな子供は好きです。このお菓子は、いろいろな場所で売っています。たいてい、小学校の前で売っています。「東京」の売場は、バイクです。店員は、いろいろなところへ、バイクに乗って売りに行きます。誰か食べたい人は、「東京」バイクを呼ばなければなりません。店員はクラクションを鳴らし、子供は、聞こえたら走って行って買います。

みなさん、「東京」というお菓子を食べたいですか？

「東京」というお菓子は二つの味があります。その味は、甘い味と塩からい味です。塩からい味あじより甘い味のほうがうまいです。甘い味は小さいです。甘い味は、大きくなるとおいしくなくなります。そこで、甘い味は小さいだけです。塩からい味は、食塩がたくさんあるので大きいだけです。

作り方はわかりません。何がはいっているかしりません。甘い味は、カスタードがはいっています。塩からいあじは、豚とソーセージと醤油が少しははいっています。「東京」は薄力粉で作ります。薄力粉を泡立てるとクリームになって、平らなパンになる。円形を作ります。

甘い味は、2～5 パーツです。塩からい味は、5～10 パーツです。みなさん、食べたいですか。



タイでは、1993 年頃に日本漫画が普及し始めました。タイは「ワンピース」と「ドラえもん」がとても有名です。昔、タイの日本漫画の読み方は左からですが、今は、右からです。日本漫画の値段は、日本よりタイのほうが安いですが、漫画の紙は日本のほうがいいと思います。タイの日本漫画の紙は堅くて、読みにくいです。世界中に日本漫画の出版社はたくさんありますから、出版者によって内容が違います。タイの日本漫画は、たのしくて読みやすいように出版します。

大人の意見は、まんがを読むのは時間の無駄です。私の意見は大人と違います。漫画は子供に読みやすく、内容が楽しくて、絵がきれいで、おもしろいと思います。漫画から、いろいろの新しいことを覚えて、日本人の生活を勉強できます。



日本のアニメ、たとえば「ドラえもん」、「Digimon」、「セーラームーン」、「ワンピース」はタイでも有名です。今、タイの一番有名なアニメは「千と千尋の神隠し」です。このアニメは、スタジオジブリでつくりました。そのあと、ピッサースタジオで日本語から英語になりました。それから、「千と千尋の神隠し」は、世界的に有名です。

日本では、コミックマーケットにコスプレーヤーがたくさんいます。コスプレーヤーは、アニメとか、ゲームが大好きなので、好きなキャラクターと同じ服を着て、キャラクターの性格と同じ性格の人になります。私もコスプレをしたことがあります。楽しかったです。

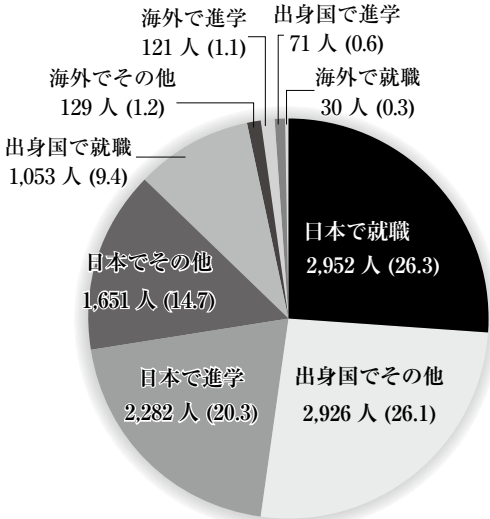
タイでは、だいたいの両親は、アニメがだめなものだと思っています。でも、私は、アニメはいいところがあると思います。アニメを見る時、聴解を練習できます。そして、日本語の会話を聞く時、新しい会話を練習して、上手になります。私のタイの大学の学部で、だいたいの学生は、日本語の試験の前に、いつもアニメを見ます。この方法はいいですよ。みなさん、ぜひしてみてください。

Data

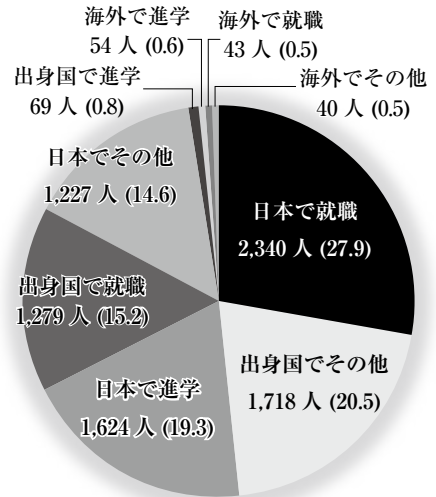
平成23年度外国人留学生進路状況調査結果より

独立行政法人日本学生支援機構が2013年3月に公開した資料より作成。

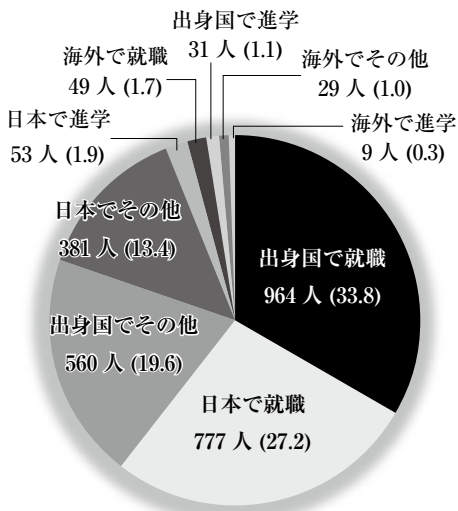
() 内は%、「海外」は日本および出身国以外の国。



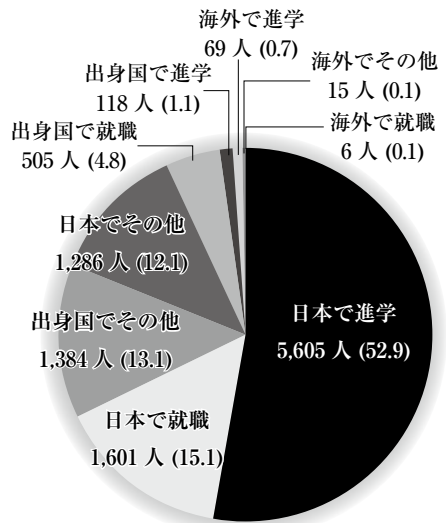
大学学部卒業生 11,215 人
(他に進路不明 904 人)



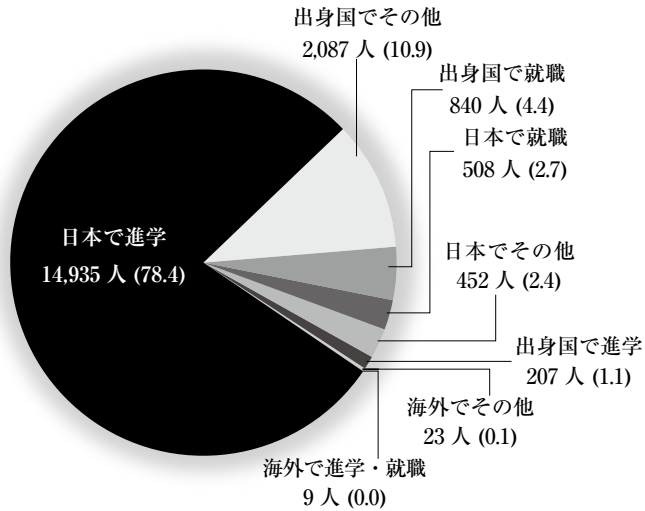
修士課程卒業生 8,394 人
(他に進路不明 967 人)



博士課程卒業生 2,853 人
(他に進路不明 334 人)



専修学校(専門課程)卒業生 10,589 人
(他に進路不明 43 人)



日本語教育機関 卒業生 19,061 人
(他に進路不明 68 人)

▼元データ (独立行政法人日本学生支援機構統計資料)

平成 23 年度外国人留学生進路状況調査結果

													(上位・留学生数(人)/下位・構成比)		
学種	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
博士課程	277	33	391	701	984	31	567	1,582	41	3	27	71	2,855	334	3,187
	27.2%	3.3%	39.4%	49.9%	33.6%	1.1%	19.6%	34.3%	1.7%	0.3%	1.0%	3.0%	100.0%		
修士課程	2,348	1,824	1,277	5,449	1,278	40	1,718	3,036	43	54	40	137	8,624	940	9,564
	27.6%	19.3%	14.8%	61.7%	15.2%	0.6%	20.5%	36.3%	0.5%	0.9%	0.5%	1.9%	100.0%		
専門職 学士課程	1,112	14	62	1,188	164	1	60	225	3	0	3	6	407	81	488
	31.9%	3.4%	1.8%	37.1%	25.4%	0.2%	12.1%	37.7%	0.7%	0.0%	0.1%	1.3%	100.0%		
大学(学部)	2,932	2,252	1,851	6,035	1,053	71	2,920	4,044	38	121	127	286	11,215	364	11,579
	26.2%	20.3%	14.7%	61.2%	9.4%	0.6%	34.1%	44.1%	0.3%	1.1%	1.2%	2.5%	100.0%		
短大	35	219	61	315	30	3	109	142	3	3	3	9	369	10	379
	15.8%	50.2%	8.9%	74.9%	5.2%	0.4%	15.8%	21.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.9%	100.0%		
高等専門学校	4	535	0	539	7	1	4	12	3	0	0	3	551	0	551
	3.6%	89.4%	0.0%	93.0%	4.0%	0.7%	2.0%	7.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%			
専門学校 (専門課程)	1,601	5,605	1,258	8,464	505	110	1,304	2,919	4	69	15	88	10,568	43	10,611
	15.1%	32.6%	12.1%	59.8%	4.6%	1.1%	13.1%	18.8%	0.1%	0.7%	0.1%	0.9%	100.0%		
専攻教育課程	11	1,111	10	1,132	13	7	121	141	0	2	0	2	1,283	2	1,285
	0.9%	85.7%	1.2%	87.8%	1.0%	0.5%	9.8%	11.3%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	100.0%		
計	7,910	11,203	4,684	23,797	3,901	201	6,912	11,114	131	259	219	609	35,579	2,019	37,598
	22.2%	31.5%	13.2%	66.9%	11.1%	0.6%	19.4%	31.4%	0.4%	0.7%	0.6%	1.7%	100.0%		

(参考) 日本語教育機関

学種	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
日本語 教育機関	508	14,829	452	15,789	840	207	2,087	3,134	4	3	27	34	19,061	68	19,129
	2.1%	78.4%	2.4%	82.9%	4.4%	1.1%	10.9%	16.4%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	100.0%		



しょうがくきんじょうぼう 奨学金情報

■ 佐藤陽国際奨学財団 Asia 留学生奨学制度 (秋募集)

●対象：①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルディブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、文部科学省所轄の大学がくぶの学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学生

②国際理解と親善に関心を持ち、財団の交流会に必ず出席できる者

③他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していない者（学習奨励金、研究助成金などを受給している場合は事前に事務局に問い合わせること。貸与奨学金については応募可）

④在留資格「留学：college student」を有する者

⑤日本で就業している親がいない者

⑥「博士」の学位を取得していない者

⑦課程の修学期間が奨学金支給開始時期より1年以上ある者

⑧勉学・研究に支障のない日本語能力を有する者

⑨当財団の奨学生を終了後、同窓生として交流活動に積極的に協力できる者

●給付金額：（学部学生）月額12万円、（大学院生）月額18万円（他に学会出席補助金制度あり）

●給付期間：①2013年10月から2015年9月までの2年間

②2014年4月から2016年3月までの2年間（ただし、採用時の正規課程の修了年限までとする。）

●募集人数：約15名

●応募方法：在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から当財団宛て郵送にて提出すること。

●募集期間：8月28日（水）～9月2日（月）

※ただし、2013年10月入学の新1年生に限り9月25日（水）まで受け付けます。

●団体連絡先：〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-7-1 公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団事務局

☎ 03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

イベント情報

「NRI 学生小論文コンテスト 2013」(留学生の部の) ご案内

- テーマ** あなたが考える「わくわく社会」を描いてください
- 応募資格** 日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校(4～5年)、日本語学校に在籍している留学生で、2013年6月1日時点で30歳以下の、個人またはペア(ペアの相手は留学生の部の応募資格者に限る)。
- 賞** 大賞1名(賞金50万円)、優秀賞若干名(賞金25万円)、佳作若干名(賞金5万円)
- 字数** 4,500～5,000字(別途、400字程度の要約をつけてください)
- 応募方法・詳細** 「コンテストホームページ」でご確認下さい。応募締切り9月9日(月)。
<http://www.nri.co.jp/publicity/contest/>
- お問合せ** 「NRI 学生小論文コンテスト 2013」事務局 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル TEL 03-6270-8200 E-mail contest2013@nri.co.jp

MEMBERS

〈会費とご寄付の報告〉

2013年4月

賛助会員

服部 泰子 豊田市

正会員

(3口)
 加倉井 弘行 豊島区
 (2口)
 林 均 横浜市
 (1口)
 鈴木 智 日立市
 飯沼 英郎 鎌倉市
 坂詰 貴司 船橋市
 高橋 作太郎 静岡市
 松本 誠一 文京区
 坪井 健 横浜市
 奥山 義夫 町田市
 杉本 宏樹 杉並区

柏原 きみ 北区
 高 秉沢／姜英園 横浜市
 染谷 誠 坂東市
 岡本 妙子 横浜市
 竹田 肇／和子 中野区
 熊沢 敏一 松戸市
 愛知淑徳大学国際交流センター 長久手市

庄司 龍平 神戸市
 小嶋 秋彦 草加市
 椋山女学園大学国際交流センター 名古屋市

ご寄付

綿貫 勤 秋田市
 戸田 清 杉並区
 増村 昭子 広島市
 田中 美智子 市川市
 歴史学講座「創世」 草加市

2013年5月

特別会員

来山 文泰 文京区

正会員

(2口)
 柳瀬修三 バンコク
 (1口)
 国士舘大学 国際交流センター 世田谷区
 真利子 知之 中野区
 近藤 清子 秩父市
 赤星 裕 船橋市
 平峯 克 川崎市
 浜田 洋子 豊島区
 千野 克子 墨田区
 宮前 つる代 秩父市
 岩井 秀生 入間市
 天野 高明 白井市
 (株)デリー 文京区
 内山 敦之 中野区

ご寄付

榎 操 品川区
 天野 高明 白井市
 栗原 静子 気仙沼市

ご報告

A B K同窓生募金 (2013年5月31日現在)



同窓生を始めたくさんの関係者の皆様からご寄付をいただき

2013年3月に募金の目標額を達成いたしました。

ありがとうございました。

4月以降にもご寄付をいただきましたので、ここにご報告いたします。

募金のご報告は『アジアの友』並びに

同窓会ホームページ< <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmeiroke.html> >で、

随時ご報告させていただきます。

- 目標額：5,000万円
- 募金額：57,722,125円
- 寄付者数：935件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC順

<中国>李焱 (2)

<香港>曹其鏞 (Novel Enterprises Ltd.)

<日本>樋口淳、星明廣、穂積五一先生追悼記念出版員会、歴史学講座「創世」代表小嶋秋彦、近藤壮一、是松恭治、増田澄 / 芳子、高橋作太郎、谷岡一也、染谷公久、鈴木秀明

2013年3月31日以前の寄付者 (920件)

バングラデシュ A.K.M. Moazzem Hussain, Hashimoto Islam Nurul (橋本イスラム・ヌール、在日)

ブラジル Alberto Tachibana, Alice Nakamori, Francisco Ishihara, Hashiguchi Mariuza, Hiromu Onishi (大西博巳)、Matsubayashi Marcia, Mizuma Tachibana Aiko, Nelson Yamakami, Sekiya Tachibana, Tomooka Tizuko, Yamauchi Atsushi, Yamauchi Kazuko

カナダ Chang Sou Wah (張素華、香港)

中国 【C】 Cai Jian Ping (蔡堅平、在日)、Chen Hong Zhen (陳洪真)、Chen Xian (陳獻) 【D】 Dai Zhi Jian (戴志堅 / 陳艷萍、在日、2) 【G】 Gao Rong (高榮) 【H】 Hironaka Gunji[広中軍二 (李軍、在日)] 【J】 Jia Fu Zhong (賈輔忠)、Jia Hui Yi (賈蕙萱)、Jin Qiu (金秋)、Jing Dong Huan (金東澣) 【K】 Kuo Nan Yan (郭南燕、在日) 【L】 Lee Chun Li (李春利、在日)、Li Chen Xi (李晨曦、在日)、Li Hui Chun (李惠春、在日)、Liu Ming Hua (劉明華)、Liu Ying Chun (劉映

春)、Liu Yue (劉越、在日)、Lu Xin Yi (呂新一、在日)【M】Meng Ling Hua (孟令樺 / 計宇生、在日、2)、Meng Xiao Xiao (孟瀟瀟)【N】Ni Yu (倪玉)【O】Ou Yang Fei (歐陽菲、在日)【P】Piao Shun Yu (朴順玉)【Q】Quang Hao (全浩)【S】Sha Lian g Xiang (沙蓮香)、Shang Jie (尚捷、在日)、Sun Qian Jin (孫前進)【W】Wang Wei (王巍)、Wang Wen (王穩)、Wei Qing Ding (魏慶鼎)【Y】Yan Hao (嚴浩)、Yang Yi Fan (楊一帆)【Z】Zhan Xin (張新)、Zhan Xin Wang (張新旺)、Zhang Hang (張航)、Zhang Yong (張勇、在日)、Zhou Xiang (周翔・黃軼)、張建敏

ドイツ Heng Fu Chong (マラヤ)

香港 Chan Sui Ngan (陳小雁)、曹其鏞、Choi Man Wa (蔡敏華)、Leung Chi Shun (梁志瞬)、Yeung King Hong (楊經航) / 蔡金燕 (マレーシア)

インド AAWI (AOTS Alumni Association of Western India)、A. P. Wagle、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、Abul Sharah、Ashok Saraf、Grug Kumar (雅留宮久麿 (在日) / 澄子 (日本))、M. Ramamurthy

インドネシア Budhi Setiawan Kohar

イラク Mudhafar Al. Jabiri

カンボジア 忍足林基 (在日) / 美恵子 (日本)

日本 【A】ABK 留学生友の会、赤星裕、新谷美紀子 / 美也子、安藤哲生、新井敬二・由利、新井重光、荒川雄彦、アジアの新しい風【C】Ch atty B.Q. (ワタナベ)、近山武子 (3)、千野克子【F】藤原一枝、深澤のぞみ、福讓二、福本一、古川恵世、古谷恵美子、布施知子【G】50周年事業委員会売上 (5)【H】濱田修、濱田洋子、浜崎長壽 / 和子、秦幸吉、服部まさ江、橋口真人、林均、樋川好美、平井まりこ、平峯克、平岡昭子 (2)、平田熙、広江重徳、帆刈礼

子、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、細川哲士、穂積亮次【I】井出遊、飯沼英郎、池田俊二、池森亮介、池野朋彦・晶子、池添尚行、生田容子、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、犬塚雄大、伊佐玲子 (2)、稲澤宏一、石原廣、石原誉慎、石井信彦、石川毅・優子、伊藤郁子、伊藤順 (3)、伊藤源之 (2)、岩井秀明 (2)、岩井秀生、岩尾明、岩佐佳英、岩崎幸子【K】甲斐等、加倉井弘行 (2)、兼重節、兼重道雄、兼重智雄、勝部純基、香月富士日、香月恵美子 (2)、掛谷知子、亀山稔史 / 幸子 / 泰、金澤けい、河合秀高 (2)、川上剛 (2; 在スイス)、川崎依邦 (株) シーエムオー (2)、菊池幸子、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰 (3)、倉部絹代、小林浩、小林泰子、國府卓二、小宮信介、金野隆光 (3)、久保哲也、久保木裕一郎、工藤正司、工藤幹雄 (6)、熊沢敏一、倉内恵孝、栗原静子 (2)、黒田一雄、黒羽宏、久津間優子【M】町田恵子、町田航、牧美保子 (2)、槇操、馬杉栄一、松平吉世、松井正枝 (3)、松岡弘 (2)、松崎松平 (2)、眞山静子、眞弓 忠、宮野尾光正、宮内俊治、水須善幸、森尾正照、森下明子、本木兼子、村田忠禧、村山秀男【N】中原和夫 (3)、中畠正喜 (2)、中嶋源吾、中元菅根 (2)、中村洋一、中野正明、中曽根信 (4)、根岸幸子、日本養成学会、西田祥子、西垣幸朋 (2)、西原彰一、西嶋勝彦、西川恵、西本梶 (2)、西村清人、西谷隆義 (2)、新田宣子 (2)、仁田裕子、野田 (小金丸) 春美、野口明美、野村美知子 (3)【O】小田中聡樹、小川蔵、小川輝夫、小木曾大 (2)、小木曾建 (2)、小木曾友 (3)、小倉尚子、小原正敏、大西一郎、岡島昭治、岡崎道子 (2)、大木直美、大久保伸枝、大久保とも子、大野大平、大里浩秋大島雅子、大島光恵、岡部洋一、奥山節子、奥山義夫、大村光、小野寺武夫、小野里光博、大越英男、大澤龍、忍足絵美、忍足眞理、大杉立、大谷里恵子【R】六文会【S】斉木史 (2)、斉藤雅史、齋藤美知子、齋藤やす子、

酒井杏郎 (3)、榊正義・正子、酒巻彩乃、坂元ひろ子、三溝弘悦、早乙女和義・博子、佐藤郁夫、佐藤正文 (2)、佐藤玲、佐藤順子、澤登晴雄、澤登千恵子 (4)、関正昭、渋谷寧伸、重野幸子、清水国夫、清水勇治・泰代 (2)、篠塚景市、白石勝己、白石勤、白鳥文子、代田泰彦、尚美学園大学国際交流センター、染谷公久、染谷誠、總寧寺、曾根文子、菅原照代、杉本宏樹、杉浦貴和子、杉山兼一、栖原暁、鈴木繁、鈴木智、鈴木八重子、鈴木順子 [T] 田川明子、田口久美子、田口昌子、田尻英三、高道俊彦 (4)、高木桂子 (2)、高橋喜久江、高橋満、高橋作太郎 (3)、高橋幸枝、高橋雄造、高野靖子、高柳直正、竹林惟允 (3)、竹田肇・和子 (2)、竹嶋俊紀、宅間薫 (2)、田守智恵子 (2)、田中千佳子、田中雅幸、田中美智子 (2)、田中利恵子 (2)、田中紳一郎、田中多美子 (2)、田中稔子・静子、田中洋一、谷口哲雄、寺門克郎 (2)、寺尾方孝・三枝子、寺沢宏次、田井満里 (2)、田井良知、田井亮吉、戸田清、鶴田純一・由美 (3)、東京華僑総会、富岡昭二郎、外山経子 (12)、豊島由久、土屋元子 (2)、土屋幸子、佃吉一 (2)、鶴尾能子 (2)、堤祐子 (2) [U] 内山敦之、宇戸清治、上高子、上田菜生、植田泰史 (2)、畠本昌介、漆畠才子、宇崎雅雄 [W] 渡辺譲二、[Y] 藪下勝、山田健一、山田守一、山田裕子 (3)、山口憲明 (3)、山本斉、山本出、山本章治、山野井昭雄、山之内正彦・萩子、山下靖典、山海保、山崎光郎 (4)、山口誠、依田良子、横山昌幸、横沢喜久子、横山昌幸、吉原秀男、吉田裕子、吉田菜穂子、吉原エツ子、吉川英一 (在中国)、湯山佳代、匿名希望 (5名)

韓国 崔銀珠 (在日)、Hahn Young Khoo (韓英鳩)、西原景哲 (在日)、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook (尹誠國、在日)、Woo Su Keun (禹守根、在中国)

ラオス Chanthasone Inthavong (在日)

マレーシア 2012年 ABK 在館マレーシア

留学生、2011年11月12日留日学生同窓会パーティー一同 [A] Adelyn Ngo、Amy Tan (陈春莲)、Alan Tan Yu Poo、Amy Tan Choong Noi (陈春莲)、Ang Gi Moh (洪以谋)、Ang Khoon Chye (汪坤才) (3)、Ang Lip Chee (洪立志)、Ang Sheng Feng (洪巧芬)、Ang Wan Leng、Apple Vacation & Conventions Sdn. Bhd. [苹果旅游有限公司; Koh Yock Heng (許育興)], Ariel Cheng (鍾欣霖)、Aw Leong Gee (欧良義) [B] Beh Chor Kim、Beh Teck Chuan、Boon Woo Seng (温武成) [C] CM Aung、Cha Yee Seng (謝宇誠)、Chai Koo Peng、Chan Huan Pang (曾煥邦) (2)、Chan Kok Foo (陳国富)、Chang Chew Chin (張昭成) (4)、Cheang Chuan Ley、Cheang Sai Keong (シンガポール)、Charles Chow (邹贵璋)、Chaw Kam Shiang (周錦生)、Cheah Soo Lin、Cheng Ja Chong (鄭捷聰)、Cheong Bee Nah (鍾美娜)、Chew Ching Seng (周昌盛) (2) /Low Kim Lee (刘金莉)、Chew Fook Keong (周福强) /Goh Ger Teng (呉月婷)、Chia Hong Hyiap (謝鴻業)、Chia Li Teck (謝礼得)、Chia Mee Hang (蔡美賢)、Chin Yok Wan (陳玉旺) (2)、Chin Saw Kiun (陳少勤、在日)、Chiu Jin Eng (周人英 / 林惠冰) (2)、Chong Piang Wee (张炳辉)、Chong Teek Foh (張德福) (2) /Chow Soo Lin、Choo (2)、Yun Fah、Choong Chee Yee、Choong Yoon Seng、Chow Kwee Lin (邹貴仁)、Chuah Yeon Hang (蔡耀漢) / Keong Chin Huai (強青懷)、Chuan Seong Tiang (Jeff Tiang)、Chui Wai Kong (朱威金光)、Clifford Lee (李進才) [E] Ee Ley Tiong (余励忠) (2) [F] Fong Cheong Thiam (洪昌添)、Fong Wee Keat、Foo Hee Hiang (符気強) (3)、Foo Keah Keat、Foo Ming Lian (符明蓮)、Foo Siang

Seng (符祥盛) (2)、Foo Soo Kong (符素光) (2)、Foo Yuki (符優綺) (2) 【G】 Gan Kok Seng (顔国成)、Gan Seu Kian (顔綉涓)、Gan Teck Yeow (顔得耀) (3) /Tan Such Fang、Goh Peng Ooi、Goh Swee See (吳瑞獅) 【H】 Ham Poh Can (范宝权)、Ham Poh Chyan、Heong See Yoon (香世运) (2)、Hew Boon Thai、How Chai Nguan (侯再源) 【J】 Joan Wai Kim Foh 【K】 Kang Chin Yeh (江晋業)、Kenneth Wong (黄復翔) (2)、Kevin Ng (吳錦強)、Khu Hwa Leng (邱華龍)、Koh Hong Hwee (許鴻輝)、Kong Guan Wie (江元偉) (2)、Kong Kwee Song (江回松)、Kong Sian Shih (江幸柿) 【L】 Lai Yoon Poh (赖永保)、劉・有村開順、Lau Kok Yong (刘国荣)、Lau Sau Hong (劉少峰、在日)、Lau Shiang Horng、Lau Weng Wah (刘润华)、Lee Check Poh (李志保) /Ng Sui Ying (黄瑞英)、Lee Chee Heong (李志雄)、Lee Kian Ling (李建霖)、Lee Kian Ling (李健霖)、Lee Kong (李廣) /Lam Chok Yak (2)、Lee Leong King (黎亮景)、Lee Liong Mui、Lee Miow Ying (李妙英)、Lee Mow Tiam (李茂添) (3)、Lee Tee Boon (李智文) (2)、Lee Tiam Hing (李天興)、Lee Yuet Keong (呂月強) /Kek Sai Fong (郭思坊)、Leong Khee Hoo (梁其和) (2)、Leong Thiat Eng (梁德荣) (2)、Leong Wing Sum (梁永森)、Lew Kim Song (劉金雄) (2)、Liau Kok Wee、Liaw CK (廖俊光)、Liew Teck Boon (劉德文) (2)、Lim Bok Hek (林木火) (2)、Lim Chee Tian (林志田)、Lim Chin Kok、林月秋 / 傳亮 (中国)、Lim Chin Ee (林振意) (3)、Lim Chong Chan (林忠贊)、Lim Hock Lai (林福来) (2)、Lee Li Soon、Lim Liong Chu (林良住)、Lim May Yan (Mmrcia Lum May Yan) (2)、Lim Peng Jin (Scientex

Japan Co., Ltd.)、Lim Sin Yean (林欣燕)、Lim Soon Hang (林顺桁)、Lim Suat San (林雪珊)、Lim Thian Huat (林天发)、Lim Yok Chai (林意財)、Loh KC (羅国俊)、Loke Hon Yee (陆汉字) (2) /June Tan (陈素芯)、Low Cho Kee (刘助基)、Low Han Peng (刘汉平)、Low Kim Lee (劉金莉)、Low Leong Meng (羅亮明)、陸培春留日センター、Lwee Lew Chen (雷柳菁)、Lwee Yuen Chiang (雷远江)、Lwee Yuen Tung (雷远东) 【N】 Na Chin Teong (藍振忠)、Ng Chee Meng、Ng Chin Keong (黄振強) (3)、Ng Chuan Aik (Tony Cang; 黄泉毓)、Ng Eng Hooi (黄永輝)、Ng Kim Chai (黄金財) (3)、Ng Mee Wah (吳劍華) (2)、Ng Teong Guan (黄忠元)、Ng Thian Eng (黄殿英)、Ngiam Tee Seng (嚴世清) (3)、Ngwan Boon Ming (阮文明) 【O】 Ong Cheng Chuan (王清川)、Ong Cheng Han (王清漢)、Ong Ching Long (王建龍)、Ong Chooi Lee (王翠莉)、Ong Poh Heng (王宝慶) (2)、Ong Thye Beng (王泰明) (2)、Ong Wei Bing、Ong Yee Meng (王玉明) 【P】 Pang Choon Boon (彭俊文)、Pang Pow Kwee (方宝貴)、Pang Yuet Hueng (彭月紅)、Phang Siew Kiong (彭修强)、Poh Siew Hui (傅秀慧)、Puah Chin Chye 【Q】 Quah Saw Ting、Quah Soh Teah 【S】 Sam Cha Peng (覃澤平)、Seah Boon Chieng (謝文清)、Shia Wei Jong (余維忠)、Sia Ooi Poh、Siau Fook Siong (箫福祥)、Siew Kooi Kam (萧钜金)、Siew Moey Yen、Siew Soke Lee、Sim Ee Looi、Sim Eng Kang (沈永江)、Sim Kee Hong (沈其豐) (2)、Sim Kim Ling、Simon Liow (廖天發) /Ho CL (何俅伶)、Soo Ka Jin、Soo Kee Chee (蘇克智)、Soh Keh Woei (蘇克偉) (3)、Soo Seck Heng (苏锡兴) (3)、Soon Kian Seng (孫健勝)、SKK Kaken (M) Sdn

Bhd、Soon Sai Kheng (宋世勤)、Stanley Lian、Su Kui Sheng (蘇桂昇)、Sui Kwai Chan 【T】 Tan Ai Lak (陳愛麗)、Tan Boon Liang (陳文亮) (3)、Tan Chaik Kwang (陳澤光)、Tan Chee Kiong (陳志強) (2)、Tan Chee Teong (陳治中)、Tan Cheet Yong (唐志勇) (2)、Tan Chew Mooi (陳秋妹)、Tan Hwee Ing、Tan Keah Moh (陳佳茂)、Tan Kee Hang (陳繼漢) (4)、Tan Pang Tee (陳邦智)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan See Seng (陳時生)、Tan Soo Sin (陳素芯)、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng (陳為勝) (2)、Tang Eng Huat (陳永發) (2)、Tang Gek Eng (陳玉英)、Tang Kok Lian (湯國亮) (4)、Tang Miow Chin (湯妙晶) (2)、Tay Kiam Guan (鄭謙源)、Tee Choon Hong (2)、Tee Kian Meng、Teh Chong Yee (鄭忠義) (3)、Teng Kim Yin (鄧錦雲)、Teo Bee Hong (張美宏)、Teo Boon Lian (張文連)、Teo Chuan Soon (張川順)、Teoh Eng Choo (張映水)、Teo Kian Song (2)、Teo Kim Chuan、Teo Kwee Swee (張貴水) (2)、Teo Tiam Hwa (張添華) (2)、Teoh Eng See (張映絲)、Tey Khern (鄭勤)、Tey Kian Teong (鄭建忠)、Tham Kok Who、Thye Meng Yu (鄭茗友)、Tian Sew Ming、Tiang Chuan Seong (鄭俊雄)、Toh Leong Chee (卓良志)、Toh Peng (杜平)、Ung Yat Keat 【W】 Wong Chao Hsiung、Wong Chee Ken (黃啓耕)、Wong Chin Shiuan (黃晉軒) (2)、Wong Choon Leng、Wong Fee Ping (黃慧萍)、Wong Jiunn Shyong (2)、Wong Ka Seng (王家成)、Wong Kim Choy、Wong Kim Choy、Wong Kok Hoi、Wong Kuok Hung (黃國鳳)、Wong Mei Kin、Wong Seng Keng (黃成耕) (2)、Wong Sheong Chin (黃錄進) (2)、Wong Tzong Chyang

(黃宗強) (2) 【Y】 Yap Men Fatt、YB Liang Teck Meng (梁德明)、Yeung King Hong、Yew Kuen Ying (姚群英)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yong Chin Chew (楊清洲)、Yap Geng Yi (叶耿瑜)、Yong Hwee Yan、Yap Shin Woei (葉信偉)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yi Ko Marketing & Enterprise、Yong Cheng Yun (楊青雲)、Yong Hon Wee (楊漢威)、Yong Kian Teck (楊建德)、Yong Kok Lin (楊國霖)、匿名希望 (2)、(B) 坂東慶彦 (F) 藤田陽一、深民崇夫 (G) 五条章二 (I) 石原政一、伊藤要、稻田幸司 (K) 越場直樹、工藤英弥、河野修、小松電機産業(株) 代表取締役小松昭夫 (M) 松島武司、水田康広、水野伸明、森下治幸 (O) 大須賀稔晴、貞包物産(株) (S) 柴田保、下村安秋、白石和也 (2)、SKK Kaken (M) Sdn Bhd (T) 田中公治、塚本秀幸 (Y) 山内一弘、山川勇人、山縣みさ、山根行弘

ミャンマー Aung Kyaw

パキスタン A. R. Siddiqi (在日)

ペルー Olga Shimada Keiko

シンガポール Chia Guan Sey (謝元生)、Foo Choo Wei (在日)、Foo Yong Tse、顏尚強、王發其、Tan Choon Shian、Wong Meng Quang

台湾 ABK 在館台湾留学生有志、周順圭 (在米)、張瑞騰、Chen Ai Chi (陳艾圻)、張忠信 (在日、2)、李淑維 (維維)、Lin Pi Chi (林丕繼、2、在日)、林登居・斎藤ヒサ子 (2、在日)、Liu Li Mei (劉麗美)、堤井信力 (在日)、廖婉淑、陳俊銘 (在日)

タイ 【A】 ABK and AOTS Almuni Association (Thailand)、Asami Hiroko (淺見博子、在タイ) 【B】 Bandihit Rojarayanont 【C】 Chamlong Srimuang、Chanintorn Mekaratana、Chovet Yimsirikul 【D】 Ditdi Chatputtongul 【G】 Gannigar

2013/ 5/31 現在 ABK 同窓生募金国・地域別集計

国・地域	件数	合計額	備考
日本	411	23,923,515	含、在外/同一人複数回 内、協会役員・評議員(除く、常勤職員) 28名・153.7万円、職員34名・858.4万円
マレーシア	353	14,946,836	含、在外/同一人複数回/日本人27/シンガポール1
タイ	51	6,858,007	内日本人17
中国	47	2,685,000	含、在外/在日他
ベトナム	7	1,423,000	含、在日
ブラジル	14	657,627	
韓国	7	420,000	含、在日他
カンボジア	1	300,000	在日
シンガポール	8	380,140	含、在日
インド	7	190,000	含、在日
香港	5	5,170,000	
台湾	15	600,000	含、在日
ミャンマー	1	50,000	
バングラデシュ	2	40,000	含、在日
イラク	1	10,000	
インドネシア	1	10,000	
パキスタン	1	10,000	在日
ペルー	1	10,000	在日
ラオス	1	10,000	在日
その他	1	30,000	
合計	935	57,722,125	

Koontanakulvong (2) 【I】 Itti Rittaporn 【K】 Kanzaki Sorda (神崎ソラダ、在日)、Kornkeo Praisontarangkul、Kraisorn Throngnymchai (在日)、Krisada Visavateeranon 【M】 Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham 【N】 Navarat Srisuponvanit、Ngampho Pattrawut、Niramai Thanatavee 【O】 Onozaki Tadashi (小野崎忠士、在タイ) 【P】 Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、

Pilaipan Mekaratana (2)、Pisan Thanatavee、Pholchai Limviphuvadh、Pornanong Niyomka H.、Prayad Kongkasawad、Prayoon Shiowatana 【S】 Sathida Mekaratana、Saowanee Patrakarn、Shintaku Hikaru (新宅光、在タイ)、Sivaporn Sirilattthayakorn、Sucharit Koontanakulvong (2)、Suchittra Hunbuncharkit (2)、Supong Chayutsahakij、Suthee Chutchaiwett、Suvit Vibulsresth 【T】 Technology Promotion Association (Thailand-Japan) (TPA; 泰日経済技術振興協会)、Thai-Nichi Institute of Technology (TNI; 泰日工業大学)、Tana Tangtrongsakdi 【V】 Vachirane Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Vilai Tomorakul、Virat Thiravathanavong 【W】 Wannadee O'sorup、Wiwut Tanthapanichakoon

【Y】 Yanase Shuzo (柳瀬修三、在タイ)、Yoshiko Limviphuvadh

ベトナム Dao Thi Minh (在日)、Dong Du (ドンズー日本語学校)、Le Quynh Chi (在日)、Nguyen An Trung、Tai Anh Tien (在日)、To Buu Luong (在日)、Tran Thanh Viet (在日)

その他 2013ABK 日本語学校卒業パーティー有志

＜ご寄付者の皆様へお願い＞

ご寄付者名簿のお名前に誤りがないかどうかご確認をお願い致します。銘板を作成するに当たり、ご寄付者のお名前の確認をしています。ご協力、よろしくお願い致します。誤りがある場合は、お手数でも下記、ABK 同窓生募金担当までご連絡をお願い致します。

メール：asca50com@abk.or.jp

Fax：03-3946-7566 TEL：03-3946-4121（代）

おたより

2013/5/12

募金が目標額（以上）を達成した由、また、新校舎の引き渡し式が行われた旨の報に接し、誠にありがとうございます。募金協力者が広汎かつ多岐にわたることに感銘を受けました。とくに、マレーシアの方々の協力者が多いことが、私の関心を引きました。これからは“学校経営”ということが事業の重点（の一つ）になるわけですね。是非、ご健闘とご成功を祈ります。（小木曾建）

2013/5/13

こんにちは！

いつも大変お世話になっております。

「アジアの友 4-5」を受け取り、表紙がとても綺麗だったので「どこかしら？」と思ったらABKの新校舎（写真右奥部分）でした。満開の桜と見事にマッチしてしばし見とれました。

こんなに素晴らしい校舎が完成したのなら、今月末の上京時に是非拝見させていただきたい、と思っております。（栗原静子）

2013/6/4

「アジアの友 4-5」の表紙の桜の写真と校舎完成の写真を見て、これはお祝に伺わなければと！ お赤飯を持ってお祝いに来ました。（鶴尾能子）

Okagesamade
With your blessings...! **50 years...!**

Minasama Konnichiwa

It was on 9th April 1963, exactly 50 years ago that I touched the land of the Rising Sun! and it has been 'touching' every moment since. I then went on a Hindu Hitachi Scholar. Even today all at Hitachi treat me so kindly.



Asia Bunka Kaikan and AOTS also developed me for Japanese culture and the international exposure has made my experience very rich.

My relatives and friends all are have been a source of inspiration and encouragement. The Government of Japan appreciates my efforts, I was honored by 'The Order of the Rising Sun,' for long service to the Japanese society. I continue my effort and look forward to repeating my fate of 50 years of association! @. I solicit your continued cooperation.

Thanking you and with best regards.

Yours sincerely,
Ramesh Divekar
April 09, 2013.

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

7月1日（月）、かねてより申請をして
おりました学校法人の認可が東京都より下り、同日の理事会を経て「学校法人ABK学館 ABK学館日本語学校」が創立しました。

後 記

2011年11月に本格的にスタートさせた念願の(財)アジア学生文化協会日本語コースの学校法人化申請手続きと新校舎の建設がこれまでに無事終了し、7月1日に東京都の認可を得て、名実ともに新しい学校法人ABK学館並びにABK学館日本語学校が創立いたしました。この間、ABKの同窓生の皆様、関係者の皆様のご支援を受けここまで至りました。今後は、皆様方の更なるご協力のもと、ABK創設者の穂積五一先生の意を汲んだ学校に成長、発展して行くことを願っています。(F)

「アジアの友」No.501（2013年2-3月号）から3回で連載の「オン・サン」に関心を寄せる人が多い。1964年当時のビルマからの留学生コロレイさんによって書かれた大変優れたビルマの独立に至る歴史の一コマだ。「アジアの友」にアジアの視点を、という声に答えた第1弾である。(F)

アジアの友 2013年 6・7月号

2013年6月20日発行（通刊第503号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行者 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: <http://www.abk.or.jp/>

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。



学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6328-3428

FAX +81-3-6328-3393

URL <http://abk-college.com>

E-mail college@abk.or.jp

2014年4月新規開校



ABK
COLLEGE

2013年4月に完成した新校舎

新築3階建校舎。最新の耐震設計です。



- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校(英語名称:ABK COLLEGE)は1957年に設立された財団法人アジア学生文化協会が寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校します。当校には姉妹校のABK日本語コース(財団法人アジア学生文化協会)もあり各種協力を行います。



授業風景イメージ



寮の一例



ABK日本語コース

ABK COLLEGE

ABK COLLEGE (学校法人ABK学館 ABK学館日本語学校)

東京都認可日本語課程(大学院・専門学校・就職・文化体験等)

4月 1年コース	860時間/1年	入学検定料	20,000円
		入学金	80,000円
		授業料(施設・教材費含む)	620,000円

姉妹校 ABK日本語コース(財団法人アジア学生文化協会)

文部科学省指定大学進学準備教育課程

4月 1年コース	1086時間/1年	入学検定料	20,000円
		入学金	80,000円
10月 1.5年コース	1586時間/1.5年	授業料	720,000円(1年)
		(施設・教材費含む)	1,080,000円(1年)

所在地: 〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13
電話: +81-3-3946-2171 FAX: +81-3946-7599

URL: <http://abk.or.jp>
E-mail: nihongo@abk.or.jp



● 駅直結の中心部にありながら、緑が多く静かな環境